

ホームルーム

授業の目的・概要

本授業は、学生が将来の進路選択および職業理解を深めるとともに、社会人として必要な基礎的態度・コミュニケーション力・実践力を養うことを目的とする。研修旅行や企業セミナー、インターンシップ等の事前・事後学習を通して、動物関連分野を中心とした職業理解を深め、仕事内容や適性について主体的に考える力を育成する。また、グループワークや発表活動を通じて協働性と表現力を高めるとともに、面談や履歴書作成指導により進路意識の具体化を図る。さらに、各種学校行事の企画・運営への参画を通して、計画性・責任感・実行力を身につけ、職業人としての基礎的資質を総合的に育成する。

科	生命科学科	教員	伊勢 朱里
コース	ドッグスペシャリストコース	教員の実務経験	ペットショップスタッフ2年
対象年次	1年	年間単位数	1単位

目標

前期

専門学校や授業がある意味を理解し、何を意識して学校生活を送るべきかを理解し、行動することができる

自分や相手の事を知り、学校生活や就職先に必要なコミュニケーション能力を身に付けることができる

後期

就職についての意識を高めるためにペット業界研究を行い、自分は何の職業が向いているのか、何が本当にやりたいのかを見極め、動物業界や職業を知るとともに、自分の進路決定を行うことができる

授業計画

- 1回 自己紹介、面談・自分の事を知ろう
- 2回 スポーツ大会について(注意事項、行事説明)
- 3回 研修旅行事前学習①—訪問先・施設調べ(グループワーク)
- 4回 研修旅行事前学習②—就職先として見る視点・質問検討
- 5回 研修旅行事後学習①—見学内容の整理と共有
- 6回 研修旅行事後学習②—就職先としての魅力と課題

2026 年度

- 7 回 研修旅行事後学習③—就職先比較と理解の深化
- 8 回 面談・自分の事を知ろう
- 9 回 企業セミナーについて（注意事項・マナー）
- 10 回 企業セミナーレポート作成
- 11 回 インターンシップ実習について(ルール・マナー説明)
- 12 回 インターンシップ実習について(履歴書書き方、準備物)、面談・自分の事を知ろう
- 13 回 なりたい職業について(グループディスカッション)
- 14 回 なりたい職業について（グループディスカッション・発表準備）
- 15 回 なりたい職業について（発表会）
- 16 回 仕事内容理解①—就職先に想定される職種（含 研修旅行事前学習）面談・自分の事を知ろう
- 17 回 仕事内容理解②—職種別業務内容（含 研修旅行事前学習）
- 18 回 仕事内容理解③—1 日の仕事の流れ（含 研修旅行事前学習）
- 19 回 仕事内容理解④—必要な知識・技術・姿勢（含 研修旅行事前学習）
- 20 回 研修旅行事後学習①—仕事内容の整理、面談・自分の事を知ろう
- 21 回 研修旅行事後学習②—仕事のやりがい・大変さ
- 22 回 研修旅行事後学習③—自分との適性を考える
- 23 回 ゼミ制度について・ゼミ希望アンケート
- 24 回 面談・自分の事を知ろう
- 25 回 面談・履歴書作成①—面談、面接方法
- 26 回 面談・履歴書作成②—履歴書の書き方
- 27 回 KAPEXPO について(行事説明、注意事項、出し物決め)
- 28 回 KAPEXPO 準備①—内容決める
- 29 回 KAPEXPO 準備②—役割分担
- 30 回 KAPEXPO 準備③—作成

授業の方法

月 1 で一人五分の面談・学校行事の説明、研修旅行の事前・事後学習で就職について理解を深める

教材

特に指定はないが、必要に応じて資料を配布していく。

評価の方法

試験点 80%、平常点 20%（出席率、授業態度、学校行事に対する意欲態度）

2026 年度

授業外での学習方法

各回に関する個人の考えをノートに書きだしておくことを事前学習とし、事後学習は、毎時の授業を終えた感想をノートに書いておくこととする。

実務経験と授業科目の関係

社会人としての心構えやマナーについて指導を行う。個別面談や履歴書作成指導、インターンシップ参加前の準備や注意事項、企業セミナー受講時のマナー指導などを通して、学生が社会に出るために必要な意識や行動を身につけられるよう支援する。また、研修旅行やエキスポ、スポーツ大会などの学校行事に関する事前・事後学習を行い、主体性や協調性の向上を図る

コンピューター実習Ⅰ

授業の目的・概要

Microsoft Word: 基本的なビジネス文書の作成から、外部アプリケーションとのデータ連携（差し込み印刷等）に至るまで、実務に即した諸機能を習得する。

Microsoft Excel: 表計算の基礎からデータベース機能を活用した一連の操作を学習し、目的に応じた適切なデータ分析を行うための技術を習得する。

Microsoft PowerPoint: 効果的なプレゼンテーション資料の作成から、スライドショーを用いた説得力のある発表技術まで、一連の機能を習得する。

科	生命科学科	教員	大西 望
コース	D	教員の実務経験	講師経験：10 年、PC サポート 13 年
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期：

- パソコン操作に必要なマウス操作、タッチタイピングの習得
- Microsoft PowerPoint を使用して、基本的なプレゼンテーションの作成を行える。
- Microsoft Word を使用して、ビジネス文書の作成が行える。

2026 年度

後期：

- Microsoft Excel を使用して、計算式・関数の計算、グラフの作成を行える。

授業計画

前期

第 0 1 回 :オリエンテーリング授業概要、評価基準、Google 共有ドライブ「2026 年度」の使い方

第 0 2 回 :Windows の概要、フォルダとファイルの管理、マウス操作

第 0 3 回 :PowerPoint (1) PowerPoint の概要、起動、画面構成、表示モード、新規作成、テーマの適用、プレースホルダーを操作する、新しいスライドを挿入する、箇条書き

第 0 4 回 :PowerPoint (2) 図形の挿入、SmartArt、練習問題

第 0 5 回 :PowerPoint (3) スライドショー実行、画面切り替え、アニメーション、プレゼンテーションの印刷、発表者ツールを使用、練習問題

第 0 6 回 :PowerPoint (4) PowerPoint の振り返り

第 0 7 回 :Word (1) 作成する文書を確認する、ページレイアウト、文書入力、文字の削除、挿入

第 0 8 回 :Word (3) 段落とフォントの調整コピー、移動、文書の保存、文章の書式を設定、文書の印刷、練習問題

第 0 9 回 :Word(4)文書作成の振り返り

第 1 0 回 :Word (5) ワードアート、画像データの挿入、文字列の折り返し、トリミング、サイズと位置の調整、

第 1 1 回 :Word (6) 表現力のある文書を作成しよう②オブジェクト、画像挿入の振り返り

第 1 2 回 :Word (7) 表のある文書を作成しよう表の作成、レイアウト、書式設定

第 1 3 回 :Word (7) 表のある文書を作成しよう①第 3, 4 章の振り返り、答え合わせ

第 1 4 回 :Word (8) 表のある文書を作成しよう②第 3, 4 章の振り返り、答え合わせ

第 1 5 回 :Word (9) 期末試験対策

第 1 6 回 :確認テスト

第 1 7 回 :自主学習 : Word でポスターを作る方法をレポートにまとめる。

2026 年度

第 18 回 :前期期末試験の返却

後期

第 19 回 :後期授業概要、評定基準

第 20 回 :Excel (1) Excel の概要、起動、画面構成、新規作成、データや数式の入力、
オートフィル、書式のコピー

第 21 回 :Excel (2) データや数式の入力の振り返り

第 22 回 :Excel (4) オート SUM 関数、相対参照と絶対参照、表の書式設定、行列操作、印刷

第 23 回 :Excel (6) 関数や相対参照と絶対参照の振り返り

第 24 回 :Excel (7) 円グラフ、縦棒グラフの作成

第 25 回 :Excel (8) グラフ作成の振り返り第 1 週

第 26 回 :Excel (8) グラフ作成の振り返り第 1 週

第 27 回 :Excel (9) テーブル機能、並び替え、フィルター、条件付き書式

第 28 回 :Excel (10) データベース機能の振り返り

第 29 回 :Word の差し込み印刷

第 30 回 :外部アプリからのデータを貼り付け

第 31 回 :Excel (11) 期末試験対策①データ入力、関数、グラフの振り返り

第 32 回 :Excel (12) 期末試験対策②データベース機能の振り返り

第 33 回 :確認テスト

第 34 回 :自宅学習②各種類のグラフの用途をレポートにまとめる

第 35 回 :確認テスト返却

授業の方法

コンピューターによる演習

教材

『よくわかる Word2024 & Excel2024 & PowerPoint2024 Office2024/Microsoft365 対応』

(株式会社富士通ラーニングメディア、2025 年 4 月 13 日、ISBN978-4-86775-152-7)

評価の方法

平常点、試験点をそれぞれ 100 点満点で成績を集計し、評価する。

- 平常点：Google 共有ドライブ「2026 年度」内に指定のファイルがあること
- 試験点：前期・後期期末試験で集計した成績

授業外での学習方法

授業範囲の操作内容を確認し、Word・Excel・PowerPoint の基本機能や用語を事前に理解しておくとともに、授業で学んだ操作を復習し、課題や練習問題を通して基本操作を繰り返し実践する。

実務経験と授業科目の関係

官公庁や教育機関での豊富な指導経験を基に、単なる機能紹介に留まらず、業務のスピードアップに直結する Microsoft アプリの効率的な活用法を伝授します。

事務処理や資料作成の現場で培った「ミスなく早く仕上げる」ための実戦ノウハウを共有し、実社会で通用する即戦力の育成を目指します。

ビジネスマナー

授業の目的・概要

前期においては社会人を見据えた基礎的なビジネスマナーを知り、学校生活での実践とインターンシップに備え履歴書・お礼状・封筒の宛名作成ができるようになる。

後期においては就職活動を見据えて、名刺交換・電話対応・席次・などの基本的なビジネスマナーを実践するための知識を身につける。

科	生命科学科	教員	稲岡
コース	ドッグスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・一般社会で働くにあたって必要なルールやマナーをベースに、動物業界での応用を説明し、可能な限り具体的にイメージできるように学ぶ。
- ・次年度の就職活動に繋がる意識づくりと、インターンシップ実習に積極的に参加し、スムーズ、かつルールに則って進められるように心構えや手順、必要書類準備についての理解を深める。

授業計画

- 1 回 オリエンテーション/挨拶について
- 2 回 校舎見学/受付の利用方法/校内でのエレベータの使い方
- 3 回 履歴書の書き方①(インターンシップ実習概要、スプレッドシートを用いた履歴書作成について)
- 4 回 履歴書の書き方②(個人情報/学歴/職歴の書き方)
- 5 回 履歴書の書き方③(自己紹介欄の書き方)
- 6 回 履歴書の書き方④(証明写真について)
- 7 回 挨拶文・お礼状①－説明
- 8 回 挨拶文・お礼状②－実践
- 9 回 封筒①－インターンシップ実習における封筒の種類説明
- 10 回 封筒②－インターンシップ実習で必要な封筒の宛名書き実践
- 11 回 インターンシップ実習、社会における報告の仕方
- 12 回 レポートの書き方
- 13 回 インターンシップ実習のしおり配布・説明
- 14 回 企業が専門学生に求めること
- 15 回 学生と社会人の違い
- 16 回 社会人としての心構え・基本マナー

2026 年度

- | | |
|------|------------------|
| 17 回 | 挨拶 |
| 18 回 | 前期の振り返り・調べ学習 |
| 19 回 | 言葉遣い、ビジネス敬語 |
| 20 回 | 名刺交換 |
| 21 回 | 電話対応 |
| 22 回 | 来客対応 |
| 23 回 | 身だしなみ |
| 24 回 | ビジネスメール |
| 25 回 | 接客における話の聞き方 |
| 26 回 | SNS について |
| 27 回 | 訪問マナー |
| 28 回 | 面接マナー①－心構えと面接の種類 |
| 29 回 | 面接マナー②－面接中の受け答え |
| 30 回 | 後期の振り返り・調べ学習 |

授業の方法

就職活動、インターンシップ実習、ビジネスマナーに関する講義

教材

特になし（授業で使用する補足プリントについては、必要に応じて授業中に適宜配布していく。）

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

- ・就職面接にて想定される設問とその回答を考えて、ノートに書く
- ・事後学習として、授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておく

実務経験と授業科目の関係

17 年専門学校学生への就職指導。ペット系業界にて、必要とされるビジネスマナーや就職活動における心構えを交えての授業を行う。

資格対策

授業の目的・概要

本授業は、愛玩動物飼養管理士およびサービス接遇検定の合格を目的とし、資格取得に必要な知識と実践的問題解決力の習得を図る。サービス接遇検定対策では、サービススタッフとしての資質、専門知識、対人技能および実務技能について体系的に学び、過去問題および模擬試験を通じて試験形式への適応力を養う。愛玩動物飼養管理士対策では、動物の行動学、栄養学、関連法規、生活環境、産業概論等の基礎から応用までを講義・課題・デジタル学習を通じて理解し、知識の定着を図る。さらに総合的な模擬試験と直前対策を行い、合格に向けた実践力を身につけることを目標とする。

科	生命科学科	教員	荻野
コース	ドッグスペシャリストコース トリミング起業コース	教員の実務経験	愛玩動物飼養管理士/サービス 接遇検定共に 2 級所持
対象年次	1 年	年間単位数	2 単位

目標

資格試験に合格することができる。

サービス接遇検定⇒模擬テスト各回 6 割以上の正答率となることができる。

愛玩動物飼養管理士⇒受験資格を取得(講習会と課題提出の達成)することができる。

模擬テスト各回 8 割以上の正答率となることができる。

授業計画

サービス接遇検定

- 1 回 オリエンテーション(受験申込書記入/試験概要の説明(愛玩含む))
- 2 回 試験範囲の配布(サービススタッフの資質、専門知識、一般知識、対人技能、実務技能)
- 3 回 試験範囲対策及び説明
- 4 回 模擬テスト①
- 5 回 模擬テスト②
- 6 回 模擬テスト③
- 7 回 模擬テスト④

愛玩動物飼養管理士

- 8 回 オリエンテーション(教科書配布/スクーリング講習と提出課題の告知/マイページ作成)

2026 年度

- 9 回 スクーリング講習①
- 10 回 スクーリング講習②
- 11 回 スクーリング講習③
- 12 回 マークシート課題実施期間①
- 13 回 マークシート課題実施期間②
- 14 回 マークシート課題実施期間③
- 15 回 マークシート課題実施期間④(提出日)
- 16 回 問題集解答及び解説配布
- 17 回 デジタル講義(行動学・栄養学)
- 18 回 デジタル講義(愛護・法規)
- 19 回 デジタル講義(動物学・指導論)
- 20 回 デジタル講義(生活環境学・産業概論)
- 21 回 模擬テスト期間①
- 22 回 模擬テスト期間②
- 23 回 模擬テスト期間③
- 24 回 模擬テスト期間④
- 25 回 試験直前案内及び総復習
- 26 回 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策
- 27 回 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策
- 28 回 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策
- 29 回 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策
- 30 回 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策

授業の方法

講義も交えつつ、模擬テストを繰り返し行い試験日までに合格ラインに到達する。

教材

サービス接遇検定実問題集/愛玩動物飼養管理士教本 2 冊/スクーリング資料/課題報告問題集

評価の方法

期末試験 50%、授業の取り組み意欲/出席率 50%

2026 年度

授業外での学習方法

サービス接遇検定実問題集の解答を行う。

愛玩動物飼養管理士のスクーリング講習を受講し、課題報告問題を解きマークシートに解答する。

実務経験と授業科目の関係

愛玩動物飼養管理士/サービス接遇検定共に 2 級所持。問題の傾向や解答の進め方などのリアルな対策の仕方を伝える。

人間形成概論

授業の目的・概要

人間関係に関する基礎知識を持ち、基礎的なコミュニケーションスキルを会得することにより、
生き物を扱う職務を遂行する社会人として、良好な人間関係を構築できる応用力を修得する。

科	生 命 科 学 科 動 物 看 護 学 科 環境科学科	教員	長岡 真美 森田 陵介
コース	ドッグスペシャリストコース	教員の実務経験	-
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

多種多様な価値観を持つ他者の存在を認め、円滑な対人関係を築くための基本的な視点を養うとともに、
グループワークや用語を知り、自身がどのような環境や経験を経て、現在の価値観を形成してきたかを分
析することができる。

授業計画

- 1 回 講師の自己紹介,生徒同士の自己紹介
- 2 回 ディスカッションのやり方・PREP 法について
- 3 回 パーソナリティについて
- 4 回 対人認知 ステレオタイプ(1) -対人認知について
- 5 回 対人認知 ステレオタイプ(2) -原因帰属、対人魅力について
- 6 回 人間関係とコミュニケーション(1) -人間関係、コミュニケーションについて
- 7 回 人間関係とコミュニケーション(2) -言語的 or 非言語的コミュニケーションをグループで学ぶ
- 8 回 インターネット依存症について

2026 年度

- 9 回 感情について
- 10 回 ストレスについて(1) -ストレスとは
- 11 回 ストレスについて(2) -ストレスへの対処法とは
- 12 回 人生曲線を書き、過去と未来の自分を見つめてみる
- 13 回 アサーショントレーニングについて
- 14 回 前期まとめ(1) -前期授業のまとめ
- 15 回 前期まとめ(2) -前期内容についてのまとめ問題を実施
- 16 回 援助行動、要請に関する社会的スキル
- 17 回 交流分析とマインドフルネス(1) -コミュニケーションを理解する観察法
- 18 回 交流分析とマインドフルネス(2) -交流パターンの分析について
- 19 回 カウンセリング、悩み相談について(1) -カウンセリングと悩み相談について
- 20 回 カウンセリング、悩み相談について(1) -グループワークで実際に悩み相談を行って学ぶ
- 21 回 動機付け(1) -欲求、動機付けについて
- 22 回 動機付け(2) -情動、自己効力感について
- 23 回 集団について(1) -集団規範とは
- 24 回 集団について(2) -他者から与えられる影響について
- 25 回 コーチングについて
- 26 回 リーダーシップ(1) -リーダーシップの歴史について
- 27 回 リーダーシップ(2) -仕事での集団の形について
- 28 回 人間関係を難しくする障害
- 29 回 後期まとめ(1) -後期授業のまとめ
- 30 回 後期まとめ(2) -後期内容についてのまとめ問題を実施

授業の方法

講義、問題についてのレポートや討論、グループワーク

2026 年度

教材

山 蔦圭輔 本田周二『メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論』（南山堂、2021 年）
ISBN 978-4-525-50451-9

評価の方法

試験 80%、授業への参画 10%、課題への取り組み 10%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

身の回りの事象が、授業内容とどのように関係しているのかを意識することと、
試験へ向けて、授業で出てきた用語をまとめる。

実務経験と授業科目の関係

授業で出てくる用語は、社会で生きていく上での人間関係構築に関することが多くある。
教員の実体験を含めながら説明していく。

陸上実習

授業の目的・概要

本授業では、陸上競技および球技を通して、基礎体力の向上と各種スポーツ技能の習得を目的とする。バスケットボール、バドミントン、バレーボール、ドッジボール、サッカーなどの多様な競技に取り組み、基本技術やルールを学びながら実践的な運動能力を養う。また、チーム対抗試合や練習試合を通して、協調性・判断力・コミュニケーション能力の向上を図る。さらに、体力テストやシャトルランを実施し、自己の体力を客観的に把握することで、健康管理意識を高める。多様な運動経験を通じて、主体的に身体を動かし、生涯にわたり健康を維持できる基礎力の育成を目指す。

科	生命科学科	教員	神垣厚治・前田拓飛
コース	ドッグスペシャリストコース	教員の実務経験	ダンスインストラクター15年 スポーツ用品店販売員9年
対象年次	1年	年間単位数	1単位

目標

1、ルール、マナー、協調性の理解と育成

→競技ごとのルールや、安全に活動するためのマナー、仲間と協力する力やコミュニケーション力を養う。

2、健康意識の向上

→運動の大切さを理解し、日常生活でも健康を意識する習慣を身につける。

3、記録への挑戦

→目標を立てて記録向上を目指すことで、達成感や努力する姿勢を身につける。

授業計画

前期

第1回 授業説明(実施場所、用具取り扱い、注意点)・各スポーツ競技練習(バスケット・バレー等)

2026 年度

第 2 回 バスケット（パス・シュート基礎）

第 3 回 バスケット（レイアップ・フリースロー基礎）

第 4 回 バスケット（ドリブル・5 対 5 練習試合）

第 5 回 スポーツ大会練習期間・各競技（バスケット・バトミントン・バレー・ドッチボール等）①

第 6 回 スポーツ大会練習期間・各競技（バスケット・バトミントン・バレー・ドッチボール等）②

第 7 回 バトミントン（下半身を鍛えるフットワーク基礎）

第 8 回 バトミントン（素振り・リフティング練習）

第 9 回 バトミントン（2 対 2 練習試合）

第 10 回 ドッチボール（投げ合い基礎）

第 11 回 ドッチボール（攻撃・守備・セーフ・アウト基礎）①

第 12 回 ドッチボール（攻撃・守備・セーフ・アウト基礎）②

第 13 回 ドッチボール（チーム対抗試合）

第 14 回 バレーボール（パス・レシーブ基礎）

第 15 回 前期試験練習（体力テスト・・反復横跳び・垂直飛び・握力・立ち幅跳び等）

第 16 回 前期試験期間（体力テスト・・反復横跳び・垂直飛び・握力・立ち幅跳び等）

第 17 回 前期試験採点期間 前期のまとめ（各スポーツ練習試合）①

第 18 回 前期試験返却期間（各スポーツ練習試合）②

第 19 回 競技選択（各スポーツ練習試合）③

後期

第 20 回 サッカー①ー（リフティング）

第 21 回 サッカー②ー（パス・ドリブル

第 22 回 サッカー③ー（チーム対抗試合）バスケットボール

第 23 回 バドミントン（チーム対抗試合）①

第 24 回 バレーボール（チーム対抗試合）①

第 25 回 ドッジボール（チーム対抗試合）①

2026 年度

- | | |
|---------|-----------------------------|
| 第 2 6 回 | バスケットボール（チーム対抗試合）① |
| 第 2 7 回 | バドミントン（チーム対抗試合）② |
| 第 2 8 回 | バレーボール（チーム対抗試合）② |
| 第 2 9 回 | ドッジボール（チーム対抗試合）② |
| 第 3 0 回 | 後期試験練習（シャトルラン） |
| 第 3 1 回 | 後期試験期間（シャトルラン） |
| 第 3 2 回 | 後期試験採点期間 後期のまとめ（各スポーツ練習試合）① |
| 第 3 3 回 | 後期試験返却期間（各スポーツ練習試合）② |
| 第 3 4 回 | 競技選択（各スポーツ練習試合）① |
| 第 3 5 回 | 競技選択（各スポーツ練習試合）② |

授業の方法

実技・体力テスト

教材

なし

評価の方法

期末試験 40%、平常点 40%、出席 20%

平常点は、授業態度と問題演習への取り組みを総合的に評価する。

授業外での学習方法

各自、授業外でのストレッチや補強トレーニング

実務経験と授業科目の関係

主にルール、マナー、協調性への理解は社会に出ていく中で、必要不可欠なものになるので、自身の実体験を含めながら説明していく。

インターンシップ I

授業の目的・概要

本授業は、動物業界への就職を目指す学生が、インターンシップを通じて実際の職場環境を体験し、専門知識・技術の実践力を養うことを目的とする。動物病院、ペットショップ、トリミングサロン、ペットホテル、動物福祉施設などの現場において、動物の飼養管理や健康観察、接客対応、衛生管理、チームでの業務遂行などを経験し、職業人として求められる責任感やコミュニケーション能力を身に付ける。また、現場での体験を通じて自己の適性や課題を把握し、将来の進路選択や就職活動に役立てることを目指す。事前指導では職業倫理や安全管理について学び、実習後には振り返りと成果報告を行うことで、学習成果の定着とキャリア形成につなげる。

科	生命科学科	教員	林
コース	全コース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・動物業界の現場における業務内容や役割を理解し、基本的な業務を適切に実践できる。
- ・動物の飼養管理、健康観察、衛生管理などに関する実践的な知識・技術を身に付ける。
- ・職業人として必要なビジネスマナー、コミュニケーション能力、協調性を身に付け、円滑に行動できる。
- ・インターンシップで得た経験を振り返り、自身の適性や課題を把握するとともに、将来の進路選択や就職活動に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 インターンシップ概要説明・目的理解・受入先の紹介
- 第 2 回 ビジネスマナー・職業倫理・安全管理・注意事項説明
- 第 3 回 インターンシップ① 施設理解とオリエンテーション
- 第 4 回 インターンシップ② 施設見学と業務内容の把握
- 第 5 回 インターンシップ③ 接客・来客対応の補助
- 第 6 回 インターンシップ④ 電話対応・受付業務の補助
- 第 7 回 インターンシップ⑤ 施設内清掃・衛生管理業務
- 第 8 回 インターンシップ⑥ 飼育環境の整備と安全確認
- 第 9 回 インターンシップ⑦ 動物の健康観察と記録
- 第 10 回 インターンシップ⑧ 給餌・給水業務の補助
- 第 11 回 インターンシップ⑨ 動物の保定補助

2026 年度

第 12 回	インターンシップ⑩	日常ケア業務の補助
第 13 回	インターンシップ⑪	施設備品・消耗品管理
第 14 回	インターンシップ⑫	顧客対応・コミュニケーション実践
第 15 回	インターンシップ⑬	チーム業務への参加
第 16 回	インターンシップ⑭	担当業務の実践①
第 17 回	インターンシップ⑮	担当業務の実践②
第 18 回	インターンシップ⑯	担当業務の実践③
第 19 回	インターンシップ⑰	担当業務の実践④
第 20 回	インターンシップ⑱	担当業務の実践⑤
第 21 回	インターンシップ⑲	担当業務の実践⑥
第 22 回	インターンシップ⑳	担当業務の実践⑦
第 23 回	インターンシップ㉑	担当業務の実践⑧
第 24 回	インターンシップ㉒	担当業務の実践⑨
第 25 回	インターンシップ㉓	担当業務の実践⑩
第 26 回	インターンシップ㉔	担当業務の実践⑪
第 27 回	インターンシップ㉕	担当業務の実践⑫
第 28 回	インターンシップ㉖	担当業務の実践⑬
第 29 回	インターンシップ㉗	担当業務の実践⑭
第 30 回	インターンシップ㉘	担当業務の実践⑮
第 31 回	インターンシップ㉙	担当業務の実践⑯
第 32 回	インターンシップ㉚	担当業務の実践⑰
第 33 回	インターンシップ㉛	担当業務の実践⑱
第 34 回	インターンシップ㉜	総合実践・就業力向上
第 35 回	インターンシップ成果報告会・振り返り・自己評価と今後の課題整理	

授業の方法

インターンによる実践。

教材

必要な資料を概要説明時に配布する。

評価の方法

インターンへの参加意欲 20%、企業の評価 50%、レポート提出 30%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

2026 年度

事前学習では、受入先の業務内容や業界動向について調べるとともに、ビジネスマナーや安全管理、動物の飼養管理に関する基礎知識を復習する。事後学習では、実習日誌や記録を整理し、実習で得た知識・技術や課題を振り返ることで理解を深め、今後の学習や就職活動に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、インターンシップにおける職業意識の形成や社会人基礎力の向上を支援するとともに、実習経験を将来の進路選択や就職活動につなげるための指導を行う。

特別活動Ⅰ

授業の目的・概要

学校行事への参加を通じて、専門分野への理解を深めるとともに、協調性や主体性、社会性を養う。各種行事における事前準備、参加、振り返りを通じて学びを深化させ、将来の職業人として必要な資質の向上を目指す。

科	生命科学科	教員	林
コース	全コース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・学校行事の目的や意義を理解し、主体的に参加できる。
- ・行事を通じて専門分野への理解を深め、学びを実践に結び付けることができる。
- ・他者と協力しながら活動に取り組み、協調性や社会性を身に付ける。
- ・行事で得た経験を振り返り、自己の成長や課題を今後の学習・進路選択に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 特別活動の目的と年間計画の理解
- 第 2 回 学校行事に参加する意義と学習目標の設定
- 第 3 回 研修旅行事前学習①（研修目的の理解）
- 第 4 回 研修旅行事前学習②（訪問先・業界研究）
- 第 5 回 研修旅行事前学習③（グループ活動計画の作成）
- 第 6 回 研修旅行事前学習④（安全管理・マナーの確認）
- 第 7 回 研修旅行事前学習⑤（事前調査の共有）
- 第 8 回 研修旅行への参加
- 第 9 回 研修旅行振り返り①（体験内容の整理）
- 第 10 回 研修旅行振り返り②（学習成果の共有）
- 第 11 回 校外実習事前学習①（実習目的の理解）
- 第 12 回 校外実習事前学習②（実習先研究）
- 第 13 回 校外実習事前学習③（安全管理とマナー）
- 第 14 回 校外実習事前学習④（学習課題の設定）
- 第 15 回 校外実習への参加
- 第 16 回 校外実習振り返り①（活動内容の整理）
- 第 17 回 校外実習振り返り②（成果と課題の分析）

2026 年度

- 第 18 回 KAP エキスポ事前学習①（イベントの目的と業界動向の理解）
- 第 19 回 KAP エキスポ事前学習②（企業研究・出展内容の確認）
- 第 20 回 KAP エキスポ事前学習③（見学計画の作成）
- 第 21 回 KAP エキスポ事前学習④（質問事項の作成）
- 第 22 回 KAP エキスポへの参加
- 第 23 回 KAP エキスポ振り返り①（見学内容の整理）
- 第 24 回 KAP エキスポ振り返り②（学習成果の共有）
- 第 25 回 卒業研究発表会事前学習①（研究テーマの理解）
- 第 26 回 卒業研究発表会事前学習②（発表の着眼点と評価方法）
- 第 27 回 卒業研究発表会事前学習③（専門知識の整理）
- 第 28 回 卒業研究発表会への参加
- 第 29 回 卒業研究発表会振り返り・学習成果の共有
- 第 30 回 年間活動の総括（自己評価・今後の目標設定）

授業の方法

演習形式で進めていき、グループワークや意見交換を積極的に取り入れていく。

教材

特にないが、必要に応じて資料を配布していく。

評価の方法

授業への参画 30%、成果発表 50%、レポート提出 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、各行事の目的や内容、関連する業界・専門知識について調査し、学習課題を明確にする。
事後学習では、活動記録やレポートを作成し、得られた知識や気づきを整理するとともに、自身の成長や課題を振り返り、今後の学習や進路形成に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、各種学校行事への参加を通じた主体的な学びや職業意識の形成を支援する。また、活動前後の目標設定や振り返りを通じて、行事で得た経験を自己成長やキャリア形成につなげられるよう指導を行う。

基礎生物学

授業の目的・概要

本授業では、生物学の基礎知識を体系的に学び、生命現象の仕組みを理解することを目的とする。細胞の構造と働き、代謝や ATP、酵素、DNA と遺伝情報、細胞分裂など生命活動の基本を学習するとともに、循環器系、消化器系、神経系、内分泌系、免疫など生体機能について理解を深める。また、生物の分類や生態系、多様性について学び、生物同士の関わりや環境との関係について考察する力を養う。さらに、糖尿病や免疫異常など身近な生命現象にも触れ、動物分野の学習に必要な基礎的科学知識と論理的思考力を身につける。

科	生命科学科	教員	鈴木 春雄
コース	ドッグスペシャリストコース	教員の実務経験	-
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期…生体を構成する細胞をはじめ、組織、遺伝子、主な臓器について学習する。

後期…生体防御、体内環境、神経系や内分泌系等の構造や働きについて学習する。

授業計画

第 1 回 生物の多様性と共通性

第 2 回 細胞（１）（特徴、大きさ、真核・原核細胞）

第 3 回 細胞（２）（細胞構造とその働き）

第 4 回 代謝とエネルギー・ATP

第 5 回 酵素の働き

第 6 回 遺伝子情報と DNA

第 7 回 体細胞分裂

2026 年度

- 第 8 回 遺伝情報の発現(1) (転写、翻訳)
- 第 9 回 遺伝情報の発現(1) (タンパク質とその合成)
- 第 10 回 減数分裂
- 第 11 回 体内環境と恒常性
- 第 12 回 循環器系 (心臓)
- 第 13 回 肝臓の働き、腎臓の働き
- 第 14 回 腎臓の働き、消化器系の働き
- 第 15 回 前期まとめ
- 第 16 回 生体防御 (1) (免疫とは)
- 第 17 回 生体防御 (2) (適応免疫の仕組み)
- 第 18 回 生体防御 (3) (免疫異常と病気、予防接種)
- 第 19 回 ヒトの神経系
- 第 20 回 自律神経 (交感神経、副交感神経)
- 第 21 回 内分泌系(1) (ホルモンとその働き)
- 第 22 回 内分泌系(2) (内分泌腺について)
- 第 23 回 体内環境(1) (糖尿病と血糖値)
- 第 24 回 体内環境(2) (体温、体液)
- 第 25 回 生物の分類
- 第 26 回 生物の多様性 (原核生物界、原生生物界等)
- 第 27 回 後期まとめ
- 第 28 回 生物の多様性と生態系(1) (植生、階層構造、バイオーム)
- 第 29 回 生物の多様性と生態系(2) (生態系、生態系の成り立ち、食物連鎖)
- 第 30 回 総まとめ

授業の方法

教材と板書

2026 年度

教材

浜島書店『生物図表』

評価の方法

期末試験 80%、 平常点 20%(出席率、授業態度)

授業外での学習方法

事前学習として、次回授業範囲の教科書を読み、細胞や器官、免疫などの専門用語や基本的な仕組みについて事前に確認しておくこと。事後学習は、授業で学んだ内容をノートや図を用いて整理し、生物の構造や機能、生態系との関わりについて理解を深めておくこと。

実務経験と授業科目の関係

-

動物関連法規学Ⅰ

授業の目的・概要

本授業では、動物業界で必要となる法規の基礎知識を学び、動物に関わる専門職としての法的責任と社会的役割を理解する。狂犬病予防法や動物愛護管理法を中心に、感染症対策、畜犬登録制度、動物取扱業の規制、動物虐待防止、特定動物、マイクロチップ装着などについて体系的に学習する。また、動物の死体処理や墓地に関する法制度など、実務に関わる内容についても理解を深める。動物を取り巻く社会問題や法改正にも触れ、動物福祉の視点を持ちながら、現場で適切に対応できる知識と職業倫理を身につけることを目的とする。

科	生命科学科	教員	井田 竜馬
コース	ドッグスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

法律の仕組み、狂犬病予防法など動物に関わる以上は必須となる制度について理解できるようになる。

後期

動物愛護法を中心にペットビジネスや動物を飼育する際に知っておくべき事柄や制度について理解できるようになる。

授業計画

- 1 回 授業概要紹介、自己紹介など
- 2 回 犬猫飼養頭数、動物に関する社会の現状など
- 3 回 狂犬病予防法（1）狂犬病とは その 1
- 4 回 狂犬病予防法（2）狂犬病とは その 2
- 5 回 狂犬病予防法（3）狂犬病清浄国・地域について
- 6 回 狂犬病予防法（4）狂犬病予防法の概要 その 1 法の概要、目的
- 7 回 狂犬病予防法（5）狂犬病予防法の概要 その 2 対象動物、輸入禁止動物（感染症法）
- 8 回 狂犬病予防法（6）狂犬病予防法の概要 その 3 畜犬登録、狂犬病予防注射制度

2026 年度

- 9 回 狂犬病予防法（7）狂犬病予防法の概要 その4 罰則など
- 10 回 動物が亡くなった場合（1）動物や動物の死体の法的立場
- 11 回 動物が亡くなった場合（2）廃棄物処理法と化製場法と動物
- 12 回 動物が亡くなった場合（3）人の墓に動物を入れることはできるのか その1
- 13 回 動物が亡くなった場合（3）人の墓に動物を入れることはできるのか その2
- 14 回 動物愛護法（1）法律の成立背景その1
- 15 回 動物愛護法（2）法律の成立背景その2
- 16 回 動物愛護法（3）目的
- 17 回 動物愛護法（4）基本原則
- 18 回 動物愛護法（5）動物の飼い主の責任 その1
- 19 回 動物愛護法（6）動物の飼い主の責任 その2
- 20 回 動物愛護法（7）動物虐待に対する罰則 その1
- 21 回 動物愛護法（8）動物虐待に対する罰則 その2
- 22 回 動物愛護法（9）動物取扱業の規制 その1
- 23 回 動物愛護法（10）動物取扱業の規制 その2
- 24 回 動物愛護法（11）動物取扱業の規制 その3
- 25 回 動物愛護法（12）動物取扱業の規制 その4
- 26 回 動物愛護法（13）第2種動物取扱業、実験動物と産業動物、
- 27 回 動物愛護法（14）特定動物 その1
- 28 回 動物愛護法（15）特定動物 その2
- 29 回 動物愛護法（16）マイクロチップの装着
- 30 回 動物愛護法（17）自治体の役割

授業の方法

講義

教材

テキスト、自作のプリント

評価の方法

試験 80%、平常点 20%で総合的に評価する。

2026 年度

授業外での学習方法

1 回 1 回の授業ノートに関してポイントを各自纏めなおし、随時チェックする。

実務経験と授業科目の関係

動物分野を専門とする行政書士として長らくペット分野の許認可を含む法律事務業務を行っており、ペットビジネスのサポートを行っている。それらの経験を下地に、主にペットに関する法律を詳しく解説していく。

コンパニオンドッグ I

授業の目的・概要

犬に関わる職業において必要な犬種ごとの特徴や対応を学び、犬を理解するとともに、将来の仕事において、お客様への情報提供やサービス、接客にて役立つ知識として習得する。また、実習実習においてこの授業で得た基礎知識を応用し、実際に犬と関わるうえで犬の扱い方や適切な対応を考えて、実践として繋げて経験値を高め、就職した際、犬との関係性構築に役立てる。

科	生命科学科	教員	稲岡 愛
コース	ドッグスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	2 単位

目標

- ・ JKC でのグループ分けを学ぶ。特性などを学び全 10 グループの違いを説明できるようになる。
- ・ 人気犬種（約種）犬の写真を見て犬種名、それぞれの犬種の特徴（外見の特徴、性格、歴史、飼育環境、健康管理、行動特性）などを学び、外見を見て犬種名、犬種の特徴を一般の方が理解できるレベルで説明できるようになる。

授業計画

- 第 1 週 授業の説明、コンパニオンドッグとは？、グループ分け①-第 1 グループ
- 第 2 週 グループ分け②-第 2 グループ、第 3 グループ、第 4 グループ
- 第 3 週 グループ分け③-第 5 グループ、第 6 グループ、第 7 グループ
- 第 4 週 グループ分け④-第 8 グループ、第 9 グループ、第 10 グループ
- 第 5 週 授業の進め方と「犬種」を学ぶことの重要性、犬種学習①-プードル、チワワ
- 第 6 週 犬種学習②-ダックスフンド、ポメラニアン、ミニチュア・シュナウザー
- 第 7 週 犬種学習③-ミニチュア・シュナウザー、フレンチ・ブルドッグ、マルチーズ
- 第 8 週 犬種学習④-ヨークシャー・テリア、柴、シー・ズー

2026 年度

- 第 9 週 犬種学習⑤- ゴールデン・レトリバー、パグ、ラブラドル・レトリバー
- 第 10 週 ドッグスペシャリストになるために（犬に関する仕事のプロになるために学ぶべきこと）
- 第 11 週 犬種学習⑥- ウェルシュ・コーギー・ペンブローク、パピヨン、ビションフリーゼ
- 第 12 週 犬種学習⑦- ジャック・ラッセル・テリア、ボーダー・コリー、ペキニーズ
- 第 13 週 犬種学習⑧- イタリアン・グレーハウンド、ミニチュア・ピンシャー、キャバリア・キングチャールズ・スパニエル
- 第 14 週 犬種学習⑨- シェットランド・シープドッグ、ビーグル、ボストン・テリア
- 第 15 週 グループ分け復習・試験対策
- 第 16 週 犬種学習⑩- アメリカン・コッカー・スパニエル、シベリアン・ハスキー、日本スピッツ
- 第 17 週 犬種学習⑪- バーニーズ・マウンテン・ドッグ、ブルドッグ、ジャーマン・シェパード・ドッグ
- 第 18 週 犬種学習⑫- ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリア、秋田、ウィペット、イングリッシュ・コッカー・スパニエル
- 第 19 週 犬種学習⑬- ドーベルマン、ボルゾイ、ダルメシアン、グレート・ピレニーズ
- 第 20 週 犬種学習⑭- 狆、フラットコーテッド・レトリバー、サモエド、ワイマラナー、ラフ・コリー
- 第 21 週 犬種学習⑮- ロットワイラー、ノーフォーク・テリア、ミニチュア・ブル・テリア、ボクサー
- 第 22 週 犬種学習⑯- セント・バーナード、チャイニーズ・クレストッド・ドッグ、チャウチャウ、アイリッシュ・セター
- 第 23 週 ペットを迎え入れることについて
- 第 24 週 犬種学習⑰- コーイケルホンディエ、ニューファンドランド、グレート・デーン、スコティッシュテリア、ワイアー・フォックス・テリア
- 第 25 週 犬種学習⑱- バセット・ハウンド、オーストラリアン・シェパード、サルーキ、オールド・イングリッシュ・シープドッグ、ケアーン・テリア
- 第 26 週 犬種学習⑲- イングリッシュ・スプリンガー・スパニエル、エアデール・テリア、バセンジー、アフガン・ハウンド、
- 第 27 週 習熟度チェック①- 犬種テスト、解説・犬の食事について
- 第 28 週 習熟度チェック②- 犬種テスト、解説・犬種選び
- 第 29 週 就職先で犬種知識を生かすために

2026 年度

第 30 週 復習、まとめ、試験対策

授業の方法

教科書に沿っての犬種に関する内容の講義

教材

若山正之監修『まるごとわかる犬種図鑑』発行所：株式会社 Gakken 発行年：2023 年

ISBN978-4-05-802066-1

評価の方法

試験 80%、習熟チェック試験 20%（習熟チェック試験については前期のみ自作ノート持ち込み可）

授業外での学習方法

- ・授業前に事前学習として対象の犬種の様々な画像を各自スマホやタブレット等で検索して見ておく
 - ・日常生活で犬を見たら犬種名を言えるようにする（わからない場合は調べるもしくは飼い主に確認）
- ➡ノートに記録する、事前に得た情報をまとめておく

実務経験と授業科目の関係

専門学校にて犬に関する知識習得後、ショップにて接客内で飼い主へのアドバイス、専門学校にて実習授業補助など実際に犬と関わった経験をもとに授業に活かします。

トレーニング概論・実習Ⅰ

授業の目的・概要

本授業では、犬の行動学やトレーニング理論を基礎から学び、犬と人が安全かつ良好な関係を築くための知識と技術を修得する。犬の歴史や進化、家畜化、生得的本能、犬種特性、成長過程などを理解するとともに、ボディランゲージやカーミングシグナル、ストレス行動、攻撃行動について学習する。また、家庭犬のしつけやリーダーシップ教育、ハウストレーニング、問題行動への対応方法を実践的に学び、実技を通して観察力と指導技術を養う。さらに、動物福祉の視点から適切なトレーニング方法を理解し、犬と飼い主双方に配慮した対応ができる実践力を身につけることを目的とする。

科	生命科学科	教員	高山美左
コース	ドッグスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	3 単位

目標

前期

犬の歴史と進化、家畜化について理解する。犬の生態、習性や行動を理解することができる

後期

犬のボディランゲージやサインを理解し、犬とのコミュニケーション技術を得ることができる

人と犬との生活のルールやマナーを構築していく為の知識をつけることができる

授業計画

第1週 実習の諸注意、班分け、

第2週 犬の歴史

第3週 犬の進化

第4週 家畜化とは

第5週 犬の生得的本能

第6週 犬の素因

第7週 犬種の特徴

第8週 特質について

2026 年度

- 第 9 週 犬の素因と育つ環境の相互作用
- 第 10 週 犬の脳と行動の関係
- 第 11 週 子犬の成長過程 1 (パピー～幼犬)
- 第 12 週 子犬の成長過程 2 (成犬～老犬)
- 第 13 週 犬の思春期がもたらす行動の変化
- 第 14 週 犬の群れの階級とは
- 第 15 週 犬のボディランゲージ/同種同士のコミュニケーション
- 第 16 週 実技テスト (前半) ・練習
- 第 17 週 実技テスト (後半) ・練習
- 第 18 週 ボディランゲージ 1
- 第 19 週 ボディランゲージ 2
- 第 20 週 犬のストレス
- 第 21 週 犬の威嚇、攻撃行動
- 第 22 週 カーミングシグナル 1
- 第 23 週 カーミングシグナル 2
- 第 24 週 犬のパーソナルスペース
- 第 25 週 犬と人との暮らしについて/犬を飼うことのリスクとメリット
- 第 26 週 家庭犬の選び方/家庭犬のしつけとは
- 第 27 週 犬の去勢と避妊について/多頭飼育について
- 第 28 週 犬の飼い主の為のリーダーシップ教育とは/リードプログラム
- 第 29 週 リードプログラム
- 第 30 週 ハウストレーニングとトイレトレーニング
- 第 31 週 甘噛み・いたずら噛み
- 第 32 週 子供のいる家庭での犬との関係づくり
- 第 33 週 嫌悪刺激によるトレーニングの弊害と動物虐待、暴力の連鎖
- 第 34 週 実技テスト (前半) ・練習
- 第 35 週 実技テスト (後半) ・練習

授業の方法

座学、実際に犬を使つての実技実習

教材

テキスト、DVD 等

2026 年度

評価の方法

80%、実習記録ファイル評価 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

実習犬の散歩等を通して、犬の管理や取扱いについて予習・復習をしておくこと。

実務経験と授業科目の関係

あり、陽性強化法を用いた訓練を通し、正しい犬との関係性の構築の仕方を教える

グルーミング概論・実習Ⅰ

授業の目的・概要

シャンプー犬種のグルーミングの意義を理解し、実際に犬の爪切り、バリカン、耳掃除、ブラッシング、シャンプー、ドライイング、足回りカット、リボン付けを行い、犬の保定の仕方や犬の扱い方、グルーミングの基礎を学ぶ。学生同士協力し、周りに気を配りながら実習を行うことで、コミュニケーション能力と協調性を兼ね備えた人材を目指す。

科	生命科学科	教員	白瀬 貴子・神坂 美紀
コース	ドッグスペシャリストコース	教員の実務経験	トリミング講師20年
対象年次	1年	年間単位数	7単位

目標

前期

グルーミング道具の使い方、用途を理解し、2人で1頭仕上げる事が出来るようになる。

ハサミの動かし方、犬の保定方法、犬の扱い方、消毒の作り方、掃除の方法を理解し身に付ける。

後期

犬に負担がかからないようにグルーミングが出来るスキルを取得する。

ベーシックマスターライセンスの取得に向けて、スピードアップと綺麗な仕上げを目指し、1人で1頭仕上げる事が出来るようになる。（チワワ：100分 ダックスフンド・パピヨン：115分仕上げ）

授業計画

- 1週 座学①(グルーミングとは、道具配布・説明、ブラッシング、コミング、耳掃除、爪切り、クリッピング、ペーディング)
- 2週 座学②(トリミング、ドライイング、道具によるケア、足周り、ハサミ、犬の体・骨格について、体調チェック・事故報告書、預かり用品・体調チェック表、消毒液の希釈方法、服装、準備方法、道具の片づけ方法、掃除諸注意)
- 3週 座学③(ウィッグ 梳き、綿花巻き方、箱作り、バリカンハサミ手入方法、実習室案内、リボン付け、ラップ紙)
- 4週 モデルグルーミング(チワワシャンプーコース見学)
- 5週 初グルーミング実習(3人で1頭) 実習の流れの理解、体調チェック
- 6週 グルーミング実習(3人で1頭) 体調チェック、ブラッシング
- 7週 グルーミング実習(3人で1頭) 体調チェック～ブラッシングの復習
- 8週 グルーミング実習(3人で1頭) 体調チェック～ブラッシング、シャンプー、ドライイング
- 9週 グルーミング実習(2～3人で1頭) 体調チェック～ドライイングの復習

2026 年度

- | | |
|------|---|
| 10 週 | グルーミング実習（2～3 人で 1 頭）体調チェック～ドライング、耳掃除 |
| 11 週 | グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～耳掃除の復習 |
| 12 週 | グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～耳掃除、爪切り |
| 13 週 | グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～爪切りの復習 |
| 14 週 | グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～爪切り、バリカン |
| 15 週 | グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～バリカンの復習 |
| 16 週 | 前期試験、グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～バリカン、ハサミ練習開始 |
| 17 週 | グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～バリカン、足回りカット |
| 18 週 | 試験返却、試験の振り返り、グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～足回りカットの復習 |
| 19 週 | グルーミング実習（1 人で 1 頭）体調チェック～足回りカット、リボン付け |
| 20 週 | グルーミング実習（1 人で 1 頭）体調チェック～リボン付けの復習 |
| 21 週 | グルーミング実習（1 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、時間を計る |
| 22 週 | グルーミング実習（1 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、チワワ 150 分 |
| 23 週 | グルーミング実習（1 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、チワワ 140 分 |
| 24 週 | グルーミング実習（1 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、チワワ 130 分 |
| 25 週 | グルーミング実習（1 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、チワワ 120 分 |
| 26 週 | グルーミング実習（1 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、チワワ 110 分 |
| 27 週 | グルーミング実習・ライセンス試験（2 週に分けて実施）①チワワ 100 分 |
| 28 週 | グルーミング実習・ライセンス試験（2 週に分けて実施）②チワワ 100 分 |
| 29 週 | グルーミング実習（1 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、飛節下カット |
| 30 週 | グルーミング実習（1 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、飛節下カットの復習 |
| 31 週 | グルーミング実習（1 人で 1 頭）体調チェック～飛節下カット、手根球下カット |
| 32 週 | グルーミング実習（1 人で 1 頭）体調チェック～飛節下カット、手根球下カットの復習 |
| 33 週 | グルーミング実習（1 人で 1 頭）一般犬グルーミング開始 |
| 34 週 | グルーミング実習（1 人で 1 頭）体調チェック～手根球下カット、一般小型犬 |
| 35 回 | グルーミング実習（1 人で 1 頭）体調チェック～手根球下カット、一般小型犬長毛種 |

授業の方法

資料を使いグルーミングの基礎となる使い方や道具の名前、準備や掃除の行い方を教える。

ブリーダーやモデル犬を使用し実技実習を行う。

教材

グルーミング用品・講義プリント(グルーミングとは、各工程の意義、道具の扱い方、準備や掃除の方法)

評価の方法

2026 年度

定期試験（実技）30%、授業態度（意欲態度 30%、言葉遣い 10%、犬の扱い方 30%）70%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

ハサミの動かし方を自宅で練習しながら、イメージトレーニングを行う。

グルーミングの手順や掃除の手順、消毒の希釈方法をレポート用紙に書き出し整理する。

実務経験と授業科目の関係

トリマーを養成する専門学校の講師として 20 年勤務して学生指導に当たり、且つその期間、年に数回のトリミングサロンでの勤務経験を有するので、技術的な指導はもちろん、接客のスキルも学生に教授することができる。

エキゾチックアニマルⅠ

授業の目的・概要

エキゾチックアニマルを扱う仕事（動物園、水族館、ペットショップ等）をする上で必要な知識を身につけるために、主要 4 種類（ハムスター、モルモット、ウサギ、フェレット）のペット動物の分類や生体・生態・特性を理解し、小動物を正しく扱えるようになる。

科	エキゾチックアニマルⅠ	教員	濱崎 裕也
コース	ドッグスペシャリストコース	教員の実務経験	-
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

前期

エキゾチックの概要およびペットや飼育動物の定義を習得することができる。

ハムスターの生体や歴史、飼育時の注意点、病気などを理解し説明できるようになる。

飼育動物の基礎を固めることができる。

後期

ウサギ・モルモット・フェレットの生体や歴史、飼育時の注意点、病気や症状などを理解し説明することができる。

飼育動物の基礎を固めることができる。

授業計画

- 1 回 エキゾチックアニマルとは
- 2 回 ペットの適性について
- 3 回 ハムスターについて（分類、歴史）
- 4 回 ハムスターについて（体の特徴、前軀）
- 5 回 ハムスターについて（体の特徴、後軀）

2026 年度

- 6 回 ハムスターについて（生理的な特徴）
- 7 回 ハムスターについて（飼育方法）
- 8 回 ハムスターについて（繁殖）
- 9 回 ハムスターについて（飼育要因の疾病）
- 10 回 ハムスターについて（感染症）
- 11 回 モルモットについて（分類・歴史）
- 12 回 モルモットについて（体の特徴、前軀）
- 13 回 モルモットについて（体の特徴、後軀）
- 14 回 モルモットについて（生理的な特徴）
- 15 回 モルモットについて（飼育方法）
- 16 回 モルモットについて（飼育要因の疾病）
- 17 回 モルモットについて（感染症）
- 18 回 ウサギについて（分類・歴史）
- 19 回 ウサギについて（体の特徴）
- 20 回 ウサギについて（生理的な特徴）
- 21 回 ウサギについて（飼育方法・繁殖）
- 22 回 ウサギについて（成長過程）
- 23 回 ウサギについて（飼育要因の疾病）
- 24 回 ウサギについて（感染症）
- 25 回 フェレットについて（分類・歴史）
- 26 回 フェレットについて（体の特徴、前軀）
- 27 回 フェレットについて（体の特徴、後軀）
- 28 回 フェレットについて（生理的な特徴）
- 29 回 フェレットについて（飼育方法）
- 30 回 フェレットについて（病気）

2026 年度

授業の方法

板書した内容を教科書・自作プリント・生体を用いて内容を解説していく

教材

カラーアトラス エキゾチックアニマル哺乳類編第三版一種類・生態・飼育・疾病―

⇒著者：霍野 晋吉、横須賀 誠 発行所：緑書房 発行年：2022 年 1 月 20 日

評価の方法

期末試験 80%、授業態度・課題への取り組み 20%

授業外での学習方法

事後学習として、授業ノートをとめる。授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目の関係

-

コンパニオンキャット I

授業の目的・概要

ペットのアドバイザーとして、猫の事を飼い主から質問を受けた時、わかりやすく正確にアドバイスが出来るようになる。この人（学生）に質問したら、分かり易く的確に説明してくれると、思われるようになる為に学習する。

科	生命科学科	教員	上田阿由美
コース	D/T/S/V	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

ペットのアドバイザーとして、猫の事を飼い主から質問を受けた時、わかりやすく正確にアドバイスが出来る。

分かり易く的確に説明することができる。

猫種名・猫と犬を比較して説明することができる。

後期

飼い主の条件・純血種のタイプ・遺伝病・健康チェック・自宅に迎える準備、迎えて時の対応の仕方、猫のシャンプー、猫種のスタンダードを理解することができる。

授業計画

前期

1 回目 オリエンテーション（講師の自己紹介・授業の目的、内容、授業を受ける態度、提出物の期日厳守、評価の出し方）アンケート用紙を渡し来週提出するように説明する。

2 回目 CFA 公認猫種カラーコピーを配布、学生に猫名を記入させる（コンパニオンキャットの授業の時は必ず持参する）

2026 年度

- 3 回目 猫の歴史（猫の起源、日本猫の歴史）を講義する。
- 4 回目 猫の起源に似ていると言われている、アビシニアンスタンダード（ティクドの毛色の猫種 アビシニアン・ソマリ・シンガプーラ）を説明する。
- 5 回目 提出したアンケートの質問にある「ペットロス」「猫の外飼い」「避妊・去勢手術」について講義する。
- 6 回目 FIV(猫エイズ)について講義する。純血種/MIX の定義、多胎性を講義する。
- 7 回目 LH/SH・MALE/FEMALE の性格・飼い方等の違い、LH/SH の毛の長さの遺伝の仕方を説明する。
- 8 回目 猫と犬の違い① 全般・習性・体型・感触（皮膚）説明する。
- 9 回目 猫と犬の違い② 歯（スケアリング）・腸管・爪を説明する。
- 10 回目 猫と犬の違い③尾（感情表現）スタンダード（ジャパニーズボブテール・トイボブ・アメリカンボブテール・マンクス）を説明する。
- 11 回目 猫と犬の違い④ 体臭・排泄物・種類・毛色の説明をする。
- 12 回目 猫と犬の違い⑤ 繁殖機能を説明する。
- 13 回目 行動学① 運動機能・舌・鼻・髭を説明する。
- 14 回目 行動学② 目・耳・鼻・内臓を説明する。
- 15 回目 行動学③ 年齢・体感・夢を説明する。

後期

- 16 回目 ペットの飼い主の条件、「トキシプラズマ症」を説明する。
- 17 回目 純血種の4つのタイプ ペットタイプ・ブリーディングタイプ（遺伝病 PKD/心筋症）を説明する。
- 18 回目 ショータイプ・トップショークオリティータイプを説明する。
- 19 回目 健康チェック① 行動・目・コート（真菌症）を説明する。
- 20 回目 健康チェック② 寄生虫・耳・骨格・腹の膨らみ（猫伝染性腹膜炎）の説明をする。
- 21 回目 健康チェック③ 肛門・尾・歩行・口腔内を説明する。
- 22 回目 自宅に猫を迎える準備・用品の選び方を説明する。

2026 年度

- 23 回目 自宅に猫を迎えた時の注意① 家族の対応の仕方を説明する。
- 24 回目 自宅に猫を迎えた時の注意② 餌・名前・トイレのしつけなどの説明をする。
- 25 回目 猫のシャンプー① 犬と猫の目的の違い、扱いの違いを説明する。
- 26 回目 猫のシャンプー② 犬と違う作業の順番を説明する。
- 27 回目 猫のシャンプー③ より早く作業を行う為にどうするかを説明する。
- 28 回目 自宅課題（内容未定）
- 29 回目 CFA 公認猫種 DVD①を見せながら、スタンダードの説明をする。
- 30 回目 公認猫種 DVD②を見せながら、スタンダードの説明をする。

授業の方法

座学（講義）

教材

CFA 公認猫種カラープリント

アメリカンショートヘア・オリエンタルタイプの猫・ペルシャのスタンダードのプリント

授業外での学習方法

提出物として、宿題を出す場合がある。（内容は未定）

機会があればキャットショーの見学

評価の方法

初回の授業で、評価の出し方を学生に伝える。

平常点（出席率・授業中の態度・意欲）

提出物 小テスト

前期・後期テスト

%は小テストその他で回数が決定していないので、未定です。

実務経験と授業科目の関係

昭和 52 年～純血猫種のブリーディング

2026 年度

平成 3 年～10 年まで、猫と犬のグルーミングサロン経営

平成 9 年～令和 4 年まで、CFA 所属「がんば神戸キャットクラブ」代表

神戸学園動物系開校から非常勤講師

平成 11 年～現在に至る CFA (U.S.A) 公認インターナショナルオールブリードジャッジ

ペット業界研究

授業の目的・概要

本授業では、ペット業界の全体像を理解し、各職種の実態や業務内容、業界が抱える課題について体系的に学ぶことを目的とする。トリマー、動物看護師、ペットショップスタッフ、ブリーダーなどの職業理解を通して、現場で求められる役割や 1 日の業務の流れを具体的に把握する。また、クレーム対応や問題行動動物への対応など、実務に即したケーススタディを通して実践的な判断力を養う。さらに、動物愛護管理法や業界の倫理・規制について学び、社会的責任への理解を深める。加えて、業界のトレンドや将来性、インターン・就職活動への準備を通して、自身の進路選択に活かせる実践的な業界理解力を育成する。

科	生命科学科	教員	津田、福田
コース	ドッグスペシャリストコース	教員の実務経験	福田：トリマー歴 1 年 津田：ペットショップ歴 6 年
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

職業や卒業後の進路について実体験を聞いて現実的にとらえることができる

後期

業界の問題とその解決に向けて自分たちが将来何をすべきかを考え、進路選択をすることができる

授業計画

- 1 回 ペット業界の全体像を知る－目的説明、授業説明、評価方法説明
- 2 回 ペット業界の全体像を知る－分野の種類
- 3 回 ペット業界の全体像を知る－市場規模、トレンド
- 4 回 職業理解(トリマー編)－リアル、1 日の流れ

2026 年度

- 5 回 職業理解(動物看護師編)ーリアル、1 日の流れ
- 6 回 職業理解(ペットショップ編)ーリアル、1 日の流れ
- 7 回 職業理解ーブリーダー、繁殖について
- 8 回 職業理解ーその他職種について
- 9 回 現場のリアルー現場のやりがい、大変なこと
- 10 回 現場のリアルークレーム、飼い主対応
- 11 回 現場のリアルー噛み犬、問題行動の現実、
- 12 回 現場のリアルー新人がやりがちなミス
- 13 回 法律・倫理ー愛護保護法
- 14 回 法律・倫理ー業種別ルール(販売、保管)
- 15 回 法律・倫理ー業界問題
- 16 回 ケーススタディディスカッション(クレーム対応)
- 17 回 ケーススタディディスカッション(噛み犬どうする?)
- 18 回 トренд、将来性ーペットの高齢化
- 19 回 トренд、将来性ー最新のトレンド
- 20 回 トренд、将来性ーこれから伸びる仕事
- 21 回 ケーススタディディスカッション(新人の立ち回り)
- 22 回 ケーススタディディスカッション(忙しさと質)
- 23 回 インターン・就職対策ーインターンとは何か
- 24 回 インターン・就職対策ー実習での立ち回り
- 25 回 インターン・就職対策ーマナー・コミュニケーション
- 26 回 インターン・就職対策ー求人の味方、職場選び
- 27 回 ケーススタディディスカッション(生体販売は必要か)
- 28 回 ケーススタディディスカッション(動物福祉とビジネス)
- 29 回 ケーススタディディスカッション(向き不向き)
- 30 回 1 年間のまとめ

2026 年度

授業の方法

本ペット業界に関する知識と現場理解を深めることを目的とし、講義・演習・ディスカッションを組み合わせ実施する。実務経験に基づく事例を取り入れ、現場で求められる判断力や対応力を養うとともに、就職を見据えた実践的な学習を行う。

教材

なし

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、動物関連施設や業界ニュースに触れ、現場での仕事のイメージを持つことで授業理解を深めておくこと。事後学習としては、授業で扱った内容をもとに各職種の特徴や課題を整理し、自分の進路や適性と照らし合わせて考察したことをノートにまとめておくこと。

実務経験と授業科目の関係

教員のペットショップスタッフやトリマーとしての実務経験を基に、ペット業界の現状や各職種の役割、業界の仕組みについて指導を行う。トリミングサロンやペットショップなどの実際の現場での経験や事例を交えながら、ペットビジネスの特徴や働き方について理解を深め、学生の職業意識の向上を図る。

栄養学Ⅰ

授業の目的・概要

犬猫に必要な五大栄養素、エネルギー要求量、ライフステージに応じた栄養管理について体系的に理解することを目的とする。加えて、ペットフードに関する知識（種類・特性・選択方法）を習得し、現場での活用を見据えた実践的知識の定着を図る。

さらに、これらの基礎知識を基に、犬猫以外の動物にも応用可能な栄養管理の考え方を理解し、動物関連業界において幅広く対応できる能力の育成を目指す。

科	生命科学科	教員	伊勢 朱里
コース	ドッグスペシャリストコース	教員の実務経験	ペットショップスタッフ2年
対象年次	1年	年間単位数	1単位

目標

前期

犬および猫に必要な五大栄養素の働きやエネルギー要求量について理解し、動物の健康維持に必要な栄養学の基礎知識を習得することができる。

また、栄養バランスの考え方を身につけ、各動物の状態に応じた適切な栄養管理の基礎的判断力を身に付けることができる。

後期

ペットフードの歴史や種類、ライフステージに応じた選択方法について理解を深めるとともに、食物アレルギーや誤食防止などに関する知識を習得することができる。

さらに、個体の状態に応じた適切なフード選択および指導ができる応用的な知識と判断力を養い、動物関連業界において実務に活かせる対応力を向上させることができる。

授業計画

- 1回 栄養学とは/栄養を摂取するとは
- 2回 五大栄養素（たんぱく質）
- 3回 五大栄養素（たんぱく質の消化）
- 4回 五大栄養素（炭水化物）

2026 年度

- 5 回 五大栄養素（炭水化物の消化）
- 6 回 五大栄養素（脂質）
- 7 回 五大栄養素（脂質の消化）
- 8 回 五大栄養素（ビタミン）
- 9 回 五大栄養素（ビタミンの消化）
- 10 回 五大栄養素（ミネラル）
- 11 回 五大栄養素（ミネラルの消化）
- 12 回 ボディコンディショニングスコア（BCS）
- 13 回 エネルギー要求量(種類)
- 14 回 エネルギー要求量(計算方法)
- 15 回 エネルギー要求量(計算してみる)
- 16 回 フードの歴史
- 17 回 4 D/フードの種類（ドライ・セミモイスト・ウェット）
- 18 回 フードの種類（総合栄養食・栄養補助食・特別療法食）
- 19 回 パッケージの見方
- 20 回 添加物・酸化防止剤・保存料
- 21 回 ライフステージ（哺乳期・離乳期・成長期）
- 22 回 ライフステージ（維持期・高齢期）
- 23 回 ライフステージ（妊娠授乳期・治療期）
- 24 回 食物アレルギー
- 25 回 犬猫が食べてはいけないもの(食物)
- 26 回 犬猫が食べてはいけないもの(植物)
- 27 回 PB と NB の違い
- 28 回 手作り食
- 29 回 サプリメント(使い方)
- 30 回 サプリメント(形状と特徴)

授業の方法

講義

教材

授業で使用する教材については、必要に応じて授業中に適宜配布していく。

評価の方法

試験 80%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

2026 年度

授業外での学習方法

次の単元のキーワードになると思うワードを指定し、予め調べてノートにまとめておくことを事前学習とする。また、事後学習として、授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目の関係

総合ペットショップでの実務経験を有しており、その経験を活かして犬および猫の栄養管理やペットフードに関する実践的な知識を指導する。

基礎健康管理学 I

授業の目的・概要

本授業は、愛玩動物看護・トリミング等の動物関連分野に従事するために必要な基礎的健康管理の知識と技術の習得を目的とする。犬を中心とした日常ケア（散歩、排泄、グルーミング、口腔ケア）や感染症予防（ワクチン、寄生虫対策、消毒）、法令（犬の登録、狂犬病予防）、栄養管理、季節性疾患および動物福祉について体系的に学ぶ。講義と実習を通じて、動物の健康維持と異常の早期発見の視点を養い、適切で実践的な飼育管理および飼い主指導ができる基礎力を身につけることを目標とする。

科	生命科学科	教員	寺鼻 友美
コース	ドッグスペシャリストコース	教員の実務経験	動物病院勤務 7 年・一般企業営業 5 年・ペット用品卸の会社広報(営業)1 年半
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・動物の健康管理における基礎知識として、排泄（糞便・尿）の観察ポイントや、眼・耳等の全身ケアを習得することができる。
 - ・ロールプレイング演習を通じ飼い主への説明スキルも身につけることができる。
 - ・各種疾病予防（ワクチン、寄生虫対策、不妊去勢手術、デンタルケア、食事指導(療法食)）の重要性を習得し、ロールプレイング演習を通じ飼い主への説明スキルも身につける。
- また動物福祉について学び対飼い主教育に必要な倫理観を培う。

授業計画

- 1 回 自己紹介 授業について
- 2 回 散歩、運動
- 3 回 排尿、排便
- 4 回 全身の手入れ①(ブラッシング/シャンプー)
- 5 回 全身の手入れ②(耳/爪)

2026 年度

- 6回 全身牡手入れ③(眼/肛門)
- 7回 熱中症について①
- 8回 熱中症について②
- 9回 犬の登録
- 10回 狂犬病
- 11回 消毒・希釈について
- 12回 混合ワクチン①
- 13回 混合ワクチン①
- 14回 混合ワクチン②
- 15回 前期のまとめ(試験対策)
- 16回 デンタルケア①
- 17回 デンタルケア②
- 18回 不妊去勢
- 19回 フィラリア予防①
- 21回 フィラリア予防②
- 22回 内部寄生虫予防①
- 23回 内部寄生虫予防②
- 24回 外部寄生虫予防①
- 25回 外部寄生虫予防②
- 26回 看護学的基礎栄養学・食事指導・療法食について①
- 27回 看護学的基礎栄養学・食事指導・療法食について②
- 28回 愛玩動物における福祉
- 29回 冬に起こりやすいトラブル・疾患について
- 30回 後期のまとめ(試験対策)

授業の方法

座学、グループワーク

教材

コンパニオンアニマルの新健康管理学

⇒(著者：浅野妃美・浅野隆司 発行所：株式会社エドワードプレス 発行年：2025年3月27日)

愛玩動物看護師コアカリキュラム準拠教科書 3巻

⇒(監修者：小野文子 発行所：株式会社エドワードプレス 発行年：2022年3月4日)

2026 年度

評価の方法

70%、授業への参画 10%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する

授業外での学習方法

事前学習として、次回の内容のタイトルを伝えるので該当教科書ページを読んでおく。自身で調べておく。

事後学習として、配布プリントで復習を行い不明点は調べるもしくは次回質問をさせる。

実務経験と授業科目の関係

動物看護師としての勤務経験とペット用品卸会社広報の経験から、ペット動物の健康管理に必要な知識・スキルを多角的に伝えることができる。

アニマルアクティビティ

授業の目的・概要

本授業では、動物との適切な関わり方やアニマルアクティビティの実践方法を学び、動物と人との良好な関係構築に必要な基礎的能力を養うことを目的とする。犬・猫・小動物などの行動特性やストレスサインを理解し、安全かつ動物福祉に配慮した接し方を身に付ける。また、動物介在活動の基礎やレクリエーション活動の企画・運営方法について学び、対象者や目的に応じたプログラムを考案できる力を育成する。さらに、高齢者施設や教育現場など多様な場面を想定した活動設計を通して、コミュニケーション能力とチームワークを高め、動物を介した社会貢献活動に必要な実践力を修得する。

科	生命科学科	教員	荻野
コース	ドッグスペシャリストコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	1 単位

目標

- ・犬・猫・小動物の行動特性およびストレスサインを理解し説明できる。
- ・動物福祉に配慮した安全なアニマルアクティビティの方法を身に付ける。
- ・対象や目的に応じた動物介在活動のプログラムを企画・立案できる。
- ・動物を介した活動において必要なコミュニケーション能力と協働力を身に付ける。

授業計画

- 第 1 回 前期オリエンテーション
- 第 2 回 動物との関わり方と安全管理の基礎
- 第 3 回 動物の行動観察（基本姿勢と記録方法）
- 第 4 回 犬との基礎コミュニケーション（接し方・サイン理解）
- 第 5 回 犬を用いたアクティビティ実践（基礎）
- 第 6 回 猫の行動特性とストレスサインの理解
- 第 7 回 猫との適切な接し方と環境づくり
- 第 8 回 小動物（ウサギ・モルモット等）とのふれあい実践
- 第 9 回 動物福祉（アニマルウェルフェア）の基礎
- 第 10 回 高齢動物との関わり方と配慮
- 第 11 回 動物を用いたリラクゼーション活動の理解
- 第 12 回 チームで行うアクティビティ企画（基礎）
- 第 13 回 アクティビティ実践（グループ活動①）

2026 年度

- 第 14 回 アクティビティ実践（グループ活動②）
- 第 15 回 前期まとめ（実践振り返り）
- 第 16 回 後期オリエンテーション
- 第 17 回 動物介在活動（AAA）の基礎理解
- 第 18 回 動物介在教育（AAE）の事例学習
- 第 19 回 動物介在療法（AAT）の基礎理解
- 第 20 回 施設内アクティビティの企画立案
- 第 21 回 高齢者施設における動物活動の理解
- 第 22 回 児童向け動物ふれあい活動の設計
- 第 23 回 ストレス軽減を目的とした活動プログラム
- 第 24 回 動物と人の安全管理（リスクマネジメント）
- 第 25 回 動物の健康管理と活動前チェック
- 第 26 回 コミュニケーションと接遇（利用者対応）
- 第 27 回 アクティビティ実践（グループ活動③）
- 第 28 回 アクティビティ実践（グループ活動④）
- 第 29 回 年間活動の総合企画発表
- 第 30 回 総括・次年度に向けた改善検討

授業の方法

講義形式を中心に説明をしていくが、グループワークや実践的な学習も一部取り入れていく。

教材

必要な資料等は授業中に配布していく。

評価の方法

試験 60 パー千、授業への参画 20%、課題提出 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、動物の行動特性やストレスサイン、基本的な接し方について教科書や資料を用いて予習し、授業内容の理解を深める準備を行う。事後学習としては、授業で実施したアクティビティや観察内容を振り返り、記録・整理することで理解を定着させるとともに、改善点や気づきをまとめ実践力の向上につなげる。

実務経験と授業科目の関係

2026 年度

ペット関連企業の運営経験を有しており、現場で求められる動物との接し方やサービス提供の実践的視点を授業内容に反映している。動物福祉や安全管理、利用者対応など、実務に即したアニマルアクティビティの企画・運営方法を学ぶことで、業界で即戦力となる実践的能力の育成に寄与する。

公衆衛生 I

授業の目的・概要

本授業では、動物業界で必要となる公衆衛生学の基礎知識を学び、人と動物が安全かつ健康に共生するための考え方を理解する。疫学や疾病予防、狂犬病予防法、感染症法、家畜伝染病予防法などの関連法規をはじめ、人獣共通感染症、食品衛生、環境衛生、衛生動物、新興・再興感染症について幅広く学習する。また、動物の適正な飼養管理と公衆衛生との関わりを理解し、衛生管理能力や感染症予防に必要な知識を身につける。さらに、近年の公衆衛生上の課題や最新情報にも触れ、動物関連業務において適切に対応できる実践力と職業倫理を養うことを目的とする。

科	生命科学科	教員	森 聖
コース	ドッグスペシャリストコース	教員の実務経験	公衆衛生学講師 3 年
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

人々の健康を維持するための知識・方法・歴史について理解を深めることができる。
健康維持に対する政策・法律を理解する能力を向上させることができる。

授業計画

- 第 1 週 自己紹介/「ガイダンス」体の各部位の名称、最近の公衆衛生上の話題」
- 第 2 週 公衆衛生とは
- 第 3 週 疫学と疾病予防-1
- 第 4 週 疫学と疾病予防-2
- 第 5 週 狂犬病予防法
- 第 6 週 社会福祉行政・環境衛生法規
- 第 7 週 動物の使用管理と関わり合い-1
- 第 8 週 動物の使用管理と関わり合い-2
- 第 9 週 感染症法_公衆衛生行政法規
- 第 10 週 家畜伝染病予防法_公衆衛生行政法規
- 第 11 週 家畜伝染病予防法_公衆衛生行政法規
- 第 12 週 動物の使用管理と公衆衛生-1
- 第 13 週 動物の使用管理と公衆衛生-2
- 第 14 週 人と動物の共通感染症とその対策-1 ウイルス
- 第 15 週 人と動物の共通感染症とその対策-2 細菌
- 第 16 週 人と動物の共通感染症とその対策-3 真菌
- 第 17 週 人と動物の共通感染症とその対策-4 寄生虫

2026 年度

- 第 18 週 病原体等に関する**安全対策**
第 19 週 **新興**感染症と**再興**感染症 人畜共通感染症
第 20 週 食品衛生法・食中毒
第 21 週 食品とアレルギー・動物性食品の衛生
第 22 週 食品の保存法・行政・健康危害防止
第 23 週 環境衛生・環境問題
第 24 週 水の衛生
第 25 週 生活環境・廃棄物
第 26 週 衛生動物
第 27 週 **ウイルス**__人と動物の共通感染症とその対策
第 28 週 **細菌**__人と動物の共通感染症とその対策
第 29 週 **真菌**__人と動物の共通感染症とその対策
第 30 週 最近の公衆衛生に関連する情報の解説

授業の方法

口述・座学、スライド、参考資料（そのうち、重要事項は学生に音読させる） にて行う。

教材

- 1 2022 EP.動物看護師教科書 5 巻、②愛玩動物飼養管理士の教本 2 級と 1 級、③放送大学の関連科目__バイオサイエンス、食の安全、など。

評価の方法

宿題回答成績や期末試験 80%、授業への参加意欲 10%、課題への取り組み 10%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

なし。

実務経験と授業科目の関係

獣医師・博士（医学）の知識に基づき、授業科目関連の最新情報をインターネット検索・整理し、講義資料を作成する。

動物解剖・生理学 I

授業の目的・概要

本授業では、動物の体の構造と機能について基礎から学び、動物業界で必要となる解剖学・生理学の知識を修得する。消化器、循環器、呼吸器、泌尿器、内分泌、神経、免疫、生殖など各器官系の役割や相互関係を理解するとともに、骨格や筋肉、皮膚など身体の構造についても学習する。また、犬猫の繁殖生理や遺伝学、生体防御機構について理解を深め、健康管理や疾病予防に活かせる知識を養う。さらに、近年注目されるマイクロプラスチックや免疫機構など最新の話題にも触れ、動物看護・飼育管理の現場で適切に対応できる実践力を身につけることを目的とする。

科	生命科学科	教員	森 聖
コース	ドッグスペシャリストコース	教員の実務経験	動物解剖生理学講師 3 年
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

動物の解剖生理機能において、基本的な知識を習得することができる。

動物の基本的な生命維持装置の特性を理解することができる。

専門課程の授業での専門用語を理解できる。

授業計画

- 第 1 週 自己紹介/「ガイダンス__体の各部位の名称、マイクロプラスチックの人への影響」
- 第 2 週 体の基本の仕組み
- 第 3 週 消化器
- 第 4 週 泌尿器
- 第 5 週 運動器
- 第 6 週 皮膚と感覚器
- 第 7 週 循環器
- 第 8 週 呼吸器
- 第 9 週 内分泌とホルモン
- 第 10 週 体内の情報伝達
- 第 11 週 血液と造血器
- 第 12 週 生殖器の形態と機能
- 第 13 週 遺伝学概論
- 第 14 週 犬科の繁殖生理
- 第 15 週 猫科の繁殖生理
- 第 16 週 骨格系

2026 年度

第 17 週 筋肉系
第 18 週 皮膚
第 19 週 循環器-2
第 20 週 呼吸器-2
第 21 週 口腔
第 22 週 胃腸
第 23 週 脾臓
第 24 週 肝臓
第 25 週 消化・吸収
第 26 週 代謝
第 27 週 腎臓学
第 28 週 生体の防御機構_免疫 制御性 T 細胞とは
第 29 週 脳と神経-1 神経系の構造と働き
第 30 週 脳と神経-2

授業の方法

口頭説明とともに、スライド・動画、参考資料を用いる。その資料うち、重要事項は学生が音読する。復習のため、宿題を作成する。最新の学術論文のインターネット検索を実演する。

教材

- 1 2022 EP.動物看護師教科書 1 巻、
- 2 愛玩動物飼養管理士の教本 2 級と 1 級、
- 3 放送大学の解剖生理学関連科目__人体の構造と機能、感覚器、神経系、免疫など。
- 4 政府機関・大学の HP や YouTube を活用。

評価の方法

宿題回答成績や期末試験 80%、授業への参加意欲 10%、課題への取り組み 10%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

教科書を読み、各器官の名称と働きを確認しておくことを事前学習とする。事後学習として、授業内容を復習し、器官ごとの機能をノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目の関係

獣医師・博士（医学）の知識に基づき、授業科目関連の最新情報をインターネット検索・整理し、講義資料を作成する。

動物看護基礎実習 I

授業の目的・概要

将来、トリミングサロンやドッグトレーニング施設、動物病院併設施設などの現場で遭遇する機会の多い犬・猫を対象に、アニマルケアの基礎を実践的に習得する。また、グルーミングやトレーニングの前提となる正確なバイタルサインの測定、健康状態の把握、および安全かつ確実な保定（コントロール）技術を、実習を通じて体得する。

さらに、アニマルケアスタッフとしての即戦力を目指し、動物病院業務の基礎（注射器の準備、予防啓発の知識、各種検査の補助）や、飼い主様との信頼関係を築くためのコミュニケーション能力を養う。

科	生命科学科	教員	寺鼻 友美
コース	ドッグスペシャリストコース	教員の実務経験	動物病院勤務 7 年・一般企業 営業 5 年・ペット用品卸の会 社広報(営業)1 年半
対象年次	1 年	年間単位数	2 単位

目標

- ・動物の習性および解剖生理に基づいた健康管理の基礎を習得する。実習を通じて、ストレスを与えない適切なアプローチ（接し方）を体得し、安全確実な保定技術と正確なバイタルチェックができる基礎能力を養う。
- ・トリマー・トレーナーに不可欠な健康状態の把握技術を実習で体得し、予防啓発の知識に基づいた飼い主様への提案力と病院業務の基礎を習得する。

授業計画

- 1 回 自己紹介 授業について(動物看護とは)看護実習における心構え
- 2 回 動物への接し方 身体の仕組み 1
- 3 回 身体の仕組み 2
- 4 回 基本保定(犬)
- 5 回 基本保定(犬) 実技
- 6 回 基本保定(猫)
- 7 回 基本保定(猫) 実技
- 8 回 状況別の保定—身体検査

2026 年度

- 9 回 状況別の保定—処置
- 10 回 状況別の保定—採血
- 11 回 バイタルサイン①—概要ボディコンディションスコア
- 12 回 バイタルサイン②—BW・TPR・CRT 栄養学
- 13 回 バイタルサイン③ 実技(犬)
- 14 回 バイタルサイン④ 実技(猫)
- 15 回 前期まとめ(試験対策)
- 16 回 前期試験
- 17 回 自主学習日【栄養学計算問題・解剖学的分野の復習問題】
- 18 回 前期試験返却 復習
- 19 回 救命救急(座学・実技)
- 20 回 フィジカルアセスメント・全身チェック①—耳・眼
- 21 回 フィジカルアセスメント・全身チェック②—皮膚・腹部
- 22 回 フィジカルアセスメント・全身チェック③—神経・骨格
- 23 回 全身チェック 実技 (犬)
- 24 回 全身チェック 実技 (猫)
- 25 回 クライアントエデュケーション(基礎健康管理学の内容から抽出)
- 26 回 クライアントエデュケーション(基礎健康管理学の内容から抽出)/発表
- 27 回 注射器・輸液/実技
- 28 回 各種検査/実技
- 29 回 実技復習(保定・バイタル・全身チェック)
- 30 回 点眼・点耳・投薬・調剤
- 31 回 後期(試験対策)まとめ/エキゾチックアニマルについて
- 32 回 前期試験試験
- 33 回 自主学習日【各種検査における基礎知識の復習問題・
クライアントエデュケーション問題】
- 34 回 前期試験返却/復習
- 35 回 採血・縫合

授業の方法

座学、グループワーク

教材

わかる犬の病気

⇒(著者：小沼 守 発行所：株式会社エドワードプレス 発行年：2020 年 10 月 28 日)

愛玩動物看護師コアカリキュラム準拠教科書 9 巻

⇒(監修者：砦上大吾 小田民美)

2026 年度

発行所：株式会社エドワードプレス 発行年：2025 年 2 月 7 日)

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7 巻

⇒(監修者：佐野忠士 石岡克己

発行所：株式会社エドワードプレス 発行年：2025 年 2 月 7 日)

動物看護実習テキスト

⇒(編集委員：山下真理子 若松あゆみ 石橋妙子 関智恵子 第 3 版

発行所：株式会社インターズー 発行年：2023 年 8 月 31 日)

評価の方法

70%、授業への参画 10%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する

授業外での学習方法

事前学習として、次回の内容のタイトルを伝えるので該当教科書ページを読んでおく。自身で調べておく。

事後学習として、配布プリントで復習を行い不明点は調べるもしくは次回質問をさせる。

実務経験と授業科目の関係

動物看護師としての勤務経験とペット用品卸会社広報の経験から、ペット業界で働くにあたり最低限身に付けておいて欲しい動物看護分野での基礎知識と、アニマルケアスタッフとして動物病院で働くにあたり最低限必要な知識を多角的に伝えることができる。